

# 比較文化学専攻 博士前期課程

## \*カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するため、文学研究科比較文化学専攻（博士前期課程）では、哲学・美学・思想・教育、歴史学、文学及び社会科学の諸分野をふまえ、文化・思想・宗教・歴史・芸術その他の視点から、日本をはじめ諸地域の個々の文化を探求し、比較研究をおこないます。

そのため、以下のような基本方針に基づくカリキュラムを編成します。

- 1 各専門分野における高度な専門的知識・技能を身につける科目を設定すること
- 2 専門的な知を有機的に結合し、学際的視野に立った総合判断力を養うことができるよう、日本文化系科目（A群）と比較文化系・比較社会系科目（B群）両群の履修を課し、さらに他専攻の科目履修を可能にする教育課程を編成すること
- 3 専門的な指導のもとで各自の研究課題を深め、修士論文を作成するための研究指導科目（比較文化学特別研究）を設置すること
- 4 多彩な専門領域をもつ比較文化学専攻院生全員と教員が集う場での研究報告を通じて、総合的・領域横断的視座への研究課題の位置づけを促す科目（比較文化学総合演習）を設置すること
- 5 高度専門的なキャリア育成のための教育課程や科目を設置し、また高度専門職を目指す社会人学生に配慮した履修プログラムを提供すること
- 6 交換留学プログラムや国際プロジェクト等、国際的な研鑽や学术交流の機会をもうけること

上記方針に基づく科目編成においては、体系的・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。